

# 伝統工芸に学び、個性を磨き、多くの価値を磨く

原稿を執筆している4月7日時点で新型コロナウイルスによって緊急事態宣言が発せられ、医療崩壊が起こるかどうかという瀬戸際である。今後、世の中がどうなるか気がかりである。明日のために「今」が大切だということを感じている。

◆ ◆ ◆  
本年3月、野球の三井ゴールデングラブ賞と双璧をなす伝統ものづくりに対する表彰、第3回三井ゴールデン匠賞を受賞、同時に一般投票で最多得票となるモストピュラー賞も受賞させていただくこととなった。本賞は、作品の評価ではなく、未来につながる取り組みを評価する賞として創設された。弊社の取り組みが審査員、社会の双方から評価され、嬉しい気持ちと同時に、第1回から今回を含め、錚々たる受賞者と一緒に表彰されることに気持ちを引き締まる想いである。

◆ ◆ ◆  
地域の伝統、文化の一部を担う身として、今取り組んでいることについて記したい。

◆ ◆ ◆  
当社は南部鉄器、その中でも伝統の中心を担う南部鉄瓶を主に製造し、販売する会社である。盛岡における南部鉄器の起源は、1615年の盛岡城築城後、1625年（年は諸説あり）に盛岡藩主南部氏が、甲斐国から鋳物師鈴木縫殿家綱を召抱え、盛岡城下に必要な金属鋳物を作らせたことに由来する。18世紀、茶の湯釜に注ぎ口と持ち手をつけ、使い勝手をよくしたのが鉄瓶と言われる。

◆ ◆ ◆  
鈴木縫殿家綱から数え13代目鈴木繁吉盛久氏（無形文化財）に私の父親で師でもある田山和康（現南部鉄器伝統工芸士会会長）が15歳で師事し、丁稚として修業した。

◆ ◆ ◆  
私自身は、高校卒業後、関東の大学に進学し生命科学を専攻、東京の食品メーカーに就職し、営業マンとして6年間を過ごした。2011年の東日本大震災が一つの契機となり、Uターン、父親に師事し、職人の傍ら会社を立ち上げ、現在に至っている。

◆ ◆ ◆  
伝統工芸業界はこの約30年の間に、市場の

80%が失われている斜陽産業である。我々職人は絶滅危惧種である。そんな中この業界に飛び込んだのには理由がある。

◆ ◆ ◆  
まず、第1に楽しそうだからである。我々の仕事は、材料を確保するための自然と、職人の技術・知恵があれば、世にプロダクトを提供できるという点でとても面白い。さらに、「五十、六十鼻垂れ小僧」といわれるように技の追及に終わりがなく、価値の源泉である技術や表現力は年齢と共に醸し出され、人生100年時代にぴったりである。

◆ ◆ ◆  
第2に日本文化は世界で特異ということである。経済学的に言えば、世界中が己の違いを生み出すために様々なリソースを投入し苦勞している中で、日本の文化は世界の中ですでにだいぶ違っている。

◆ ◆ ◆  
第3に斜陽産業だからである。この産業は資産の活かし方に課題を抱えている結果としての斜陽産業だと考えている。つまるところ、価値があるだろうということである。

◆ ◆ ◆  
ひと時代前、効率化の波が押し寄せ、機能



タヤマスタジオ株式会社  
(盛岡市)  
代表取締役

田山 貴 紘



「てつびんの学校」での講座風景



当社の仲間たちと

面での競争でコスト勝負に負けた。鉄瓶はやかに敗北した。しかしながら、鉄瓶の価値は単に湯を沸かすという機能面だけではない、多様な価値を有している。

リーマンショック以降、世の中の流れが変わった。南部鉄器に内在している価値に磨きをかけて表出させることで社会に対してさらに貢献できる可能性があることにとつともなく魅力がある。これらを理由にこの業界に飛び込み、現在職人4名を含む社員8名、7期目である。

歴史を振り返ると、南部鉄器が社会に提供してきた価値は2つ、「暮らしをつくる」「場、空間、時間をつくる」である。弊社ではkanakenoという、「丁寧」を育む鉄瓶ブランドを立ち上げ、原点に立ち返って活動している。まずは、地域社会の中に在るべきという考

えから、「てつびんの学校」という市民と学ぶ講座を行なっている。共に南部鉄器を学ぶことで、地域に対しての誇りを感じてもらえているように思う。また、気軽に南部鉄瓶に触れて欲しいという意味合いから、盛岡中ノ橋通りにengawaというカフェ&ショップを構えている。昨年8月に開業してから約5000人の方に鉄瓶で沸かした白湯を味わってもらい、その味わいに予想以上の驚きと感動をしていただき、南部鉄瓶を五感で感じて喜んでいただく場となっている。

長年続いているものにはそれなりの理由があると思うが、携わる者としてもその価値を学ぶ日々である。その価値を後世につなげていくためには、後継者育成が必須である。後継者問題の解決に必要な視点は、経営視点だと考えている。利益をあげることに、そして限られたリソースを最大限活用することが、後継者育成を促し、その後継者によってさらに大きな価値を社会に提供できる正のサイクルが回る。その利益の余剰によって地域社会に公共福祉も提供される。

弊社では職人育成において、約百ある工程のひとつ工程ずつを習熟していく方法

ではなく、早期に全工程を把握し、課題を明確にしてから各工程を習熟していく方法に改めた。10年かかると言われている職人育成を3年に短縮できつつある。この育成方法と、鉄瓶の加飾の工夫の組み合わせによって、品質のよい鉄瓶を低価格で社会に提供することも可能となった。機械化による効率化ではなく、仕組みの工夫によって、後継者育成、市場開拓を行っていることに対して評価をいただき、冒頭の受賞となっている。

我々の組織では、伝統工芸ではほぼ見ないような多様な人材での「座組み」となっていることも今回評価していただいた。同質化した労働力は組織の知の領域を狭める結果となりがちであるし、今後、RPAとAIによって代替される世の中になってくる。個々が活きいきとし、世の中に最大限の価値を提供していく組織を追及していきたい。

鉄瓶は、錆びるといふ一見ネガティブに感じる性質を許容しているからこそ、湯がまるやかになるとか鉄分が含まれるといったポジティブな面が発揮される。短所を拒否し消すアプローチは長所まで同時に消してしまうことにつながる可能性があることも伝統工芸は教えてくれる。

岩手県において、多くの価値が磨かれるのを待っているように感じる。個性を磨くことで個々が楽しく有意義に生きることができるような明日の地域の一員となるために、「今」を励みたい。